

2007.3.8

速水智子

<http://www.hayamizu.jp>

「ユビキタス時代の歩み方講座」

第9回 タイトル **イノベーションと社会の変化**

みなさま、こんにちは。

今回は、新しい技術が生まれることで世界の貧困が改善され、開発国の人々に恩恵をもたらすといった点について、最新の事例を元にお話をいたしました。

今回は、新しい技術が社会にどのような影響力を与えるのかについて「イノベーションと社会の変化」といった観点から考えてみたいと思います。

社会に変化をもたらす発見や発明

これまでの人間の歴史を振り返ってみますと、それまでの社会で当然のように受け入れられていた常識といったものが、発明や発見によって、ある時を境に大きく変化を遂げることに気づかされます。

ここではドラッカーの『ネクスト・ソサエティ』から3つの発明を取りあげ、社会に与えた影響について見ていきたいと思います。

グーテンベルクの印刷機の発明

1455年にグーテンベルクが発明した活版印刷機は金属の活字、油性インク、ぶどうの絞り器を改良して作った機械を使うものでした。これによって、それまでできなかった大量の書物の印刷ができるようになりました。この時印刷されたものは、何世紀にわたり修道士が書き写していた宗教書や古文書でした。

その結果、多くの人々がこれらの書物を安く読むことができるようになります。更にこの発明後60年がたち、ルターのドイツ語訳の聖書が大量にしかも安く印刷されます。そのことによってヨーロッパでは、宗教革命が起こりカトリックの改革へと向います。

つまり、この新しい技術は、一般の人々への書物の広がりのみならず、人々に思想的な影響を与え、ひいては、国民国家というものへと志向し、社会の仕組みへの革新をもたらしました。

ジェームス・ワットの蒸気機関の発明

さて、次に、産業革命へと時代を導いたジェームズ・ワットの蒸気機関の発明を見ていきましょう。この技術は、1785年に紡績工場を作りだしました。工場での生産は紡績のほか、鉄鋼や鉄製品などの、モノづくりの一連の流れを機械化し、生産のスピードを高め、コストを低くさせました。

工場では、工場労働者という新しい労働スタイルが生み出されました。そのことは、これまでの家族のあり方を一変させます。家内生産に携わっていた労働を外に向わせ、仕事と家庭の役割の分離が始まりました。

1829年の鉄道の出現

3つめの1829年の“鉄道の出現”も技術が与える広範なインパクトを見せてくれます。それまでの馬車に代わって、蒸気機関による、人を運ぶしくみがこの時、初めて現れました。その影響はアメリカにおいては西部開拓を引き起こしたと言われていています。

特に、普通の人々に“地理的距離”を意識させ、距離の移動による様々な可能性を拓いたことは重要な点です。そのことは、直接的に鉄道とはかかわりがなかった新たな産業の芽を創出させました。例えば、電報、郵便、新聞といった新しいメディアの誕生や近代社会の基盤となるインフラの整備や新産業に加え、投資銀行、商業銀行などの多くの社会のしくみも生まれました。

発明から社会革新へ

これまで見てきたように、新しい技術の果たす役割は、生産の能力を高めたりコストを下げたりするだけでなく、次々と社会を変革させる力となっていくことです。印刷機の発明は多様な書物の印刷から、人々に思想的な変容をもたらしました。蒸気機関は、生産にかかわる工程を機械化し、産業というものを創出しました。そこで、これにかかわるモノや人の活動にも変化があらわれます。中でも労働スタイルの変化は、人々の生活を一変させました。鉄道の出現は、様々な近代的な産業や制度を生みだしました。このように、印刷、蒸気機関、鉄道といった技術的な発明は、その後の経済や社会の制度、価値観を激変させ、世界的な規模で革新がおこったのです。

イノベーションとは？

このように社会に変化をもたらす“革新”のことを「イノベーション」といいます。オーストリアの経済学者のシュンペーターが、景気の仕組みを説明するために使った言葉です。シュンペーターは、生産にかかわる様々なものを組み合わせ、全く新しいものを生み出すことをイノベーションととらえ、創造的破壊を主張しました。つまり、経済活動にとって重要な原動力であると考え

たのです。

日本に必要なイノベーション

さて、ここで今日の私たちをとりまく日本の社会に目を向けてみましょう。これまで見てきたように新しい技術と社会の変化の関係には、深いつながりがあることが理解されたと思います。

しかしながら、これまで、私たちは歴史を学ぶときに、その発明の部分が強調され過ぎてきたように思います。しかし本当に大切なことは、社会に与える影響の方なのです。

1月に安倍首相が施政方針演説を行いました。その中で「イノベーション」という言葉が重要なキーワードとして挙げられています。

このねらいについては、日本の経済の成長と社会の活力を生み出すための方法として、イノベーションの力に期待していることが理解されます。この「イノベーション25」という戦略については Web サイトに掲載されています。

[\(http://www.cao.go.jp/innovation/\)](http://www.cao.go.jp/innovation/)

生活に密着したイノベーション25

第一回の戦略会議の記者会見録を読みますと、イノベーションについて、単なる技術革新ではなくて、社会を変えていく力というとらえかたをしています。例えば、イノベーションを生み出す構想力のある人間をいかに作りだすかといった点やそのアイデアを社会に還元する社会システムについてふれています。また生活者の視点から見たイノベーションの重要性についても述べています。今後、5月、6月をめどに実現へのロードマップを作っていく計画のようです。

ユビキタス時代の未来を見据えた時、技術にかたよることなく、社会的イノベーションにも十分配慮していくことは重要です。そして、多くの国民が明るい将来を描ける道筋を示すことが大切なことではないでしょうか。

イノベーションは、日本が世界の中でリーダーとして歩いていくためにとても大きなテーマでもあるのです。

以上

[参考文献]

P・F・ドラッカー（2002）『ネクスト・ソサエティ』、ダイヤモンド社